

場所・面積

茨城県小美玉市、8.23ha

管理目的

工場敷地が地域の生物多様性保全に貢献すること、また、従業員や地元の人々（特に小学生）に環境教育や憩いの場を提供することを目的としている。

サイト概要

横浜ゴム（株）茨城工場内の緑地。常緑広葉樹、草地、水辺、里山林、クリ林などの二次的自然環境がモザイク状に存在している。工場周辺および敷地内でサシバ (*Butastur indicus*) が確認されたことから、「サシバの暮らす工場」をめざした管理を行っている。また、茨城県の準絶滅危惧種であるアイナエ (*Mitrasacme pygmaea*) が工場敷地内で自生していることが確認されている。

**土地利用の変遷**

1946年3月に撮影された米軍による空中写真では敷地の大部分を畑が占め、一部に針葉樹林らしい樹林があったが、その後敷地の東側にも樹林帯が広がったと思われる。1970年に横浜ゴムが土地を取得し、1973年に西側に高圧ホース工場を建設した。1975年ごろは敷地中央寄りの谷戸頭に林地が残っていたがそれ以外は草地となっていた。1980年までに東端に野球場（裸地）が置かれ、それ以外の場所は草地に木がまばらに生える状態となった。その後草地は森となっていたが、1990年ごろ野球場の西側にゴルフ試打場が設置された。2020年に谷戸頭にあったヨシやススキの植生を一部開き、カエルなどの生息・定着を目的とした湿地帯を形成した。

サイト周辺の環境

茨城県小美玉市の園部川の支流沿いに広がる谷津田の谷津頭とそこから一段高くなった場所に位置する。サイト周辺は針葉樹林の人工林、果樹林および畑地が広がっている。以前はサイト北側の羽鳥駅周辺および国道355号沿いに民家がある程度であったが、近年、特にサイトの北側・北東側で宅地開発が進んでいる。

アピールポイント

サイト内ではサシバ、オオタカ、コチョウゲンボウ、トビなどの猛禽類が確認されている。特にサシバは採餌が確認されており、サイトが繁殖行動に寄与していると思われる。また、ジョウビタキやアオジが越冬地として利用している。カケス、ヤマガラなど林地を好む鳥やイソヒヨドリなど高い場所を好む鳥、草地を好むキジや水辺を利用するカワセミなど、工場建屋を含めて多様な環境がパッチ上に形成されていることが多様な野鳥が暮らせる環境を提供しているものと思われる。また、茨城県の準絶滅危惧種のアイナエや、ヌマトラノオ、ヒメガマ、サワフタギなど、湿地や水辺を好む植物が確認されており、近年減少が続く水辺環境の植生保護に役立っているものと思われる。工場敷地内であり、盗掘等のおそれが少ないことも保護地としてアドバンテージがあると考えている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

工場敷地内の約48%がABINC認証の「生物多様性に貢献する環境」となっており、低茎草地・芝生、中茎・高茎草地、水辺、落葉樹、常緑広葉樹などがパッチ状に存在している。

【主な植生】

常緑広葉樹の主なものは、スダジイ、アラカシ、タブノキ、シラカシである。

落葉広葉樹の主なものは、コナラ、クリ、ソメイヨシノなどである。

草地の主な植生は、ススキ、ヨシ、シバ、オギ、アズマネザサ、スズメノカタビラ、トキワハゼ、カタバミなどである。

【確認された主な動植物】

サイト内は全体として里地的な環境が維持されているため、以下のような里地環境に特徴的な種の生息が確認されている。

鳥類： サシバ（学名：*Butastur indicus*, 成体）

オオタカ（学名：*Accipiter gentilis*, 成体）

コチョウゲンボウ（学名：*Falco columbarius*, 成体）

ホオジロ（学名：*Emberiza cioides*, 成体）

エナガ（学名：*Aegithalos caudatus*, 成体）

は虫類： ニホンカナヘビ（学名：*Takydromus tachydromoides*, 成体）

両生類： ニホンアマガエル（学名：*Dryophytes japonica*, 成体、幼体）

昆虫： クロコノマチョウ（学名：*Melanitis phedima*, 成虫）

アキアカネ（学名：*Sympetrum frequens*, 成虫）

コカマキリ（学名：*Statilia maculata*, 成虫）

植物： アイナエ（学名：*Mitrasacme pygmaea*）



写真の撮影年月：

写真の説明：サイトの様子、二次林、水辺、草地が配置



写真の撮影年月：

写真の説明：敷地内で観察されたアイナエ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

工場敷地内に残存した二次的自然環境及び人工的に配置した緑地で、自然を活用した防災機能のほか、従業員の憩いの場や近隣小学生の環境教育の場としての機能を考慮してゾーニングし、それに適した管理を行っている。地域在来種である高木・低木の植生と芝地や高茎・中茎草地を配置することで多様な鳥類や昆虫類などの生息が確認されている。

【主な植生】

主な植生は、低茎草地・芝地、落葉広葉樹林、高茎・中茎草地、常緑広葉樹林である。

【確認された主な動植物】

以下の通り、在来種が確認されている。

ヒタチマイマイ（学名：*Euhadra brandtii brandtii*, 成体）

カブトムシ（学名：*Trypoxylus dichotomus*, 成虫：♂・♀）

ヤマトシジミ（学名：*Zizeeria maha*, 成虫）

シオカラトンボ（学名：*Orthetrum albistylum speciosum*, 成虫、羽化直後、産卵中）

ニホンアマガエル（学名：*Dryophytes japonica*, 成体）

ヒガシニホントカゲ（学名：*Plestiodon finitimus*, 成体）

ウグイス（学名：*Horornis diphone*, 成体）

ミツバツチグリ（学名：*Potentilla freyniana*）

アイナエ（学名：*Mitrasacme pygmaea*）



写真の撮影年月：

写真の説明：水辺、草地、二次林のゾーニング管理



写真の撮影年月：

写真の説明：サイト内で撮影されたヒタチマイマイ

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

工場敷地内に残存した二次的自然環境及び人工的に配置した緑地で、自然を活用した防災機能のほか、従業員の憩いの場や近隣小学生の環境教育の場としての機能を考慮してゾーニングし、それに適した管理を行っている。地域在来種である高木・低木の植生と芝地や高茎・中茎草地を配置することで多様な鳥類や昆虫類などの生息が確認されている。

【対象となる動物種】

毎年3月から10月頃に以下の種の飛来を確認している。

- ・ サシバ（学名：*Butastur indicus*, 成体）
- ・ ツバメ（学名：*Hirundo rustica*, 成体）

また、毎年10月頃から4月頃に以下の種の飛来を確認している。

- ・ アオジ（学名：*Emberiza spodocephala*, 成体）

2020年7月にはイソヒヨドリ（学名：*Monticola solitarius*）の幼鳥を工場敷地内で確認した

【動物が利用している生活史】

繁殖：サシバ、ツバメ、イソヒヨドリ、ハクセキレイなど

越冬：アオジなど



写真の撮影年月：2022年5月

写真の説明：サイト内で確認されたサシバ



写真の撮影年月：2020年7月

写真の説明：サイト内で確認されたイソヒヨドリの幼鳥⁴

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

- サシバのための水場（ビオトープ）周辺の草刈りを冬期を除き月1回程度行い、エコトーンが維持できるように管理する。
- 低茎草地（芝地）では冬期を除き週3回程度草刈りを行い、芝地を維持している。
- 落葉広葉樹林は樹木の伐採等を禁止するとともにモニタリング時に人為的な攪乱が生じていないことを確認する。
- 常緑広葉樹林（千年の杜）は公道に面した部分を除き人為的な攪乱を加えない。公道に面している部分は電線に接する恐れや倒木などのおそれが生じた場合は適宜選定している。
- 管理の概要は「生物多様性に配慮した緑地管理マニュアル」に従って実施している。
- 外来種の除去については「侵略的外来種防除マニュアル」に従って実施している。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

鳥類、植生、爬虫類、両生類、昆虫類

【モニタリング場所】

工場敷地内

【モニタリング手法】

ルートセンサス

昆虫類は捕虫網を使用した調査

両生類は水場（ビオトープ）のみ

【実施時期及び頻度】

5月、7月、10月の3回（実施月の変更あり）

サシバは上記に加えて適宜

【実施体制】

野鳥調査：日本野鳥の会茨城県、横浜ゴム従業員、ヨコハマモールド従業員

植生調査：小美玉生物の会、横浜ゴム従業員

小動物調査（昆虫、爬虫類、両生類）：小美玉生物の会、横浜ゴム従業員、ヨコハマモールド従業員
それぞれ5名程度/班で調査実施